福島公論

發行日　一日、十日、廿日
一部金五錢
發行人　山下三次
編輯印刷人　安川源一
發行所　平町南町七一

縣議戰を控へて
石城民政黨員に激す！

比佐昌平代議士が一躍中央の人格高潔を見とめられる事に依つて當然陸軍參與官に推された、石城民政黨員諸君よ、我等の擁立する比佐ごして獨り黨員諸君の誇りのみならず我郷土の生める河野磐州翁の繼承者こして鄕土の名譽とせねばならぬ之れ、等しく鄕土の民衆的心理の發露と比佐閣下の人格が我等大衆の代辯者に足るものと思ふ。況んや黨員諸君は白井と戰へ敗れ世界の星と戰い勝ち今日三回幾多の物質精心的應援は實に悲壯なるものがある、今や參與官より次官、大臣の椅子を見へだしたる時、民政黨員諸君は自重一番石城民政黨のため黨本位を持して善處せねばならぬ秋である、徒らに黨を攪亂させ自己の榮達を誇る徒輩あるこせば我々等黨員は合法的手段に訴へ支配階級より蹴落してしまわねばならね、去る四月廿六日石城民政黨倶樂部に部會召集會長若松美三氏の名の下に總會を開き黨規八條に基き黨制を亂するものとし野崎滿藏氏除名を滿場一致意義なく參集者六百を以つて決議されたのである事茲に及んでわ多くを黨員諸君に訴へずとも知る筈である、政治家は大衆本位を持つて戰い我々生活の保證をより以上安定に努力し大衆の味方となり奮鬪する人格者を要望するものである、自己の感情や利害榮達を誇り自巳の立場も考慮せず[illegible]も見ず進む政治家は我々大衆の味方として擁立する事は出來得ぬのである黨員議君等は現政府の施政方針に基き黨員たるの自覺を把持し大衆本位を實行する大衆政治家を撰べ、九月縣會選擧も目捷の間に迫つた、鄕土發揚縣政改革の峯火は今や我々黨員並に有權者大衆の鍵とはなつた石城民政黨部會中心によろ三人の人格ある立候補者を出し極力當選のため奮鬪あらん事を熱望するものである。

公論　正義

石城民政黨員大衆の輿論は私情的問題より起る自巳主義を以つて猪突する野崎滿藏君を除名の空氣濃厚となりる四月廿六日の部會總會に於て斷然除名した事を當然の歸結である。

然るに自巳を顧る事を知らず深刻なる抗爭的態度を持し又々本月五日しかも責任者無き民政黨石城部會の名の下に黨員を迷わし眼心の部下を獲り集め少數の會衆に依て聚樂館に於て綱會と稱する事をやつたが當員輿論は之れ等の行動を一笑に附して居る。

之の野崎派集會に萩原義雄除名とか、はて現在民政黨石城部會綱會の際六百の黨員の前で幹事長に推された萩原義雄氏は現に黨勢擴張のために幾多の努力を拂つて戰つて居るが同姓同名でもあるのか變な事もあるものだ。

それに彼等の集會當日自分が現比佐陸軍參與官に送つた作年一月廿日の絕交狀を公開して三阪村中三阪の演說會場で野崎君を侮辱讒誣し當選の曉は野崎君を絕交すると演述したとの事を宣傳なしをる

遊說部員の人達は大勢に順應し人に惡口も云わぬ紳樣の樣な比佐先生に對し飽く迄防害し、氏家候補者を擁して全部に遊說を無す事は惡るい黨のため比佐先生のため現縣會議員となつた事を忘れたのかと

絕叫したけれども比佐氏には斷じて野崎氏の惡口は一度云ふた事がない亦聞いた事は無かつたとは現に當時演說聽取者の內の三阪村方面の多數の有志家の話である

之の公開狀を一月しても諒者は表面的比佐先生と手を取る可く努力を表わしても野崎君の氣性として今後おちの廻る事を待たれず大勢に逆行なし功を急ぎ惡るいと云ふ事を悟らず一層深刻に喰へ込んで行く奸手段に輿論はごう〳〵として除名されたる野崎君の非を打ち呆れたものだとの話である。

小松齒科醫　開業

平町小松支店主茂氏の實弟にして陸軍少尉嘗つては日大齒科醫師の秀才を以つて鳴つた氏は今般鄕里玉川村の近町小名濱錦盛館前に五月四日より近町村有志家の奬めによつて開業專ら業に當つて居るが親切と枝衛優秀を誇りとする小松正治氏は非常なる期待を持たれ未だ日淺にも拘らず治療患者多數の狀況を示し評判が良い

黨員諸君迷さるゝ勿れ！

四月廿九日の磐城時報に揭載された『野崎滿藏氏の談』と言ふ記事及其他二三の新聞記事又は一部の人が召集した部會當日の聲明書等により大分事實の眞想を誤り傳へられてある樣だから素直に事實を述べよう

漆畑元吉氏へ通知しない事を非難されて居るが、漆畑元吉氏は昭和二年鄕里靜岡へ歸られしとき石城民政部會に退會を屆出てられてある殊に其際は部會として質素ではあるが送別會を開いて惜別の意を表した、而して幾何もなくして同氏は歸平せられたが何時部會へ入會せられ亦如何なる挨拶があつたか吾々は知らない、假りに百歩を讓りて夫れは宜しいとしても吾石城民政部會とは何等交渉なき團体を石城民政部會と潛稱し其會長として事毎に我黨に對し妨害的態度を執りつゝある人に對し何を苦しむで總會の通知を發する必要があらうか。

又廿六日の總會に集つたのは湯本の人と平町の一部八で四五、十名の會合だと言ふが事實を見た人はなんと思ふ比佐參與官任官祝賀會に出席した各町村の主なる黨員は皆出席して四百名以上の會衆であつた事實は獨り吾々の言ふ所計りではない警察當局も明かに認めて居る事と信ずる、更に定刻前即ち午前十時前に總會を了たなどゝはよくも噓をつかれたものだと思ふ、そんな文句をつける人があるだろうと思ふから幹部も注意して時計を標準時に合して開會を早くしろと會衆より請求あるにも不拘正午前十時に開會を宜し議事を進め野崎氏の除名決議も滿場一致一人の異議者もなく決定した。

比佐昌平氏が三坂村で當選後は野崎氏と絕交すると言つた事を聞いたから絕交されない前に絕交狀を出したと野崎氏は公表して居るが野崎氏は比佐氏に對し之れも確かめたか又は比佐氏がそんな放言をなしたと言ふ確證でもあるのか。

比佐氏は座談でも演說でも人の惡口や人身攻擊などをする人ではない、若し聞いたと言ふ人があるならば承りたい、吾人は比佐氏に追從して三坂澤渡方面へも行たけれども同氏は野崎氏の野の字も口にした事はない。

小兒が喧嘩をして對手をなぐり付けて、なぜそんな亂暴をするかと叱られると『誰ちやんはいつか僕のことを惡口言つた事があつぺいヤイ』と言ふのと何の撰む所がある。

去年の二月有聲座で會合した集りを大島支部長が總會と認めたと言ふ書面があるそうだが夫れは支部長の裁定案で吾々は之れに承服せず故に大島支部長は直ちに取消てある。それだからこそ我石城民政部會は滿場一致で推薦した比佐昌平氏を公認し、部會幹事長萩原氏が選擧事務長となり其他の幹部が選擧委員となり一致結束して政戰に臨んだ、そしてあの大捷を得たのである事實は雄辨に這般の消息を物語つて居るのではないか。

一部の人が總會を召集して萩原幹事長を除名したなとゞ豪語して居るそうだが所謂痴人夢を說くの類寧ろ其心事憐むべきである。

野崎氏除名の理由は黨役員丈けで協議すべきものであつて公表すべき性質のものではない、亦公表する必要もないことを附言する。

（石城民部會政某幹部談）

トピス　時代

馬車より軌道——自動車への開拓者　山崎佐市郎氏

石城郡中邑市たる平町より約一里内郷村字金谷に生を亨けて理智と温厚篤情を持つ氏は石城交通界のため軌道株式會社を創立原頭に立ち幾多の辛苦と交通界のため大衆的に貢獻なし來たつたものである。

然るに時代の推移は許し難く軌道をはいし新形自動車講入、スピート的なる時代に倶ふたる交通界に貢獻されつゝあつた事は言を俟たぬ、

今度又山間壁地として國境を絶たれたる感ある澤渡村下市萱迄文化の發達は交通の開拓より、且つては之の村民の不便を憂慮し約拾二幾度か縣廳を訪れ嘆願なし幾多の義性と萬難を排して終に二月一日より開通に出でたる事は獨り氏の努力結昌として澤渡、永戸村民は勿論の事石城郡民として之の自動車交通開拓を惠心より山崎佐市郎氏の努力に感謝して居る事は世人の輿論がごう〳〵として話題になつて居る、事は氏の努力の賜である。

良品廉賣に勝る商略なし
磐城セメント特約代理店
和洋銅鐵金物問屋　久　釜屋商店
磐城平町五丁目
電話　九番　九九番
振替貯金口座一〇九五六番

福島縣平町白銀町壹番地
河田鐵工所
河田梅吉
セメント、鑛山用諸機械、エレベータ
コンベヤー各種製作販賣
工事設計請負
營業用　電話(平)三二九
電略(カワ)又ハ(カ)
福島縣平町大町三番地
自宅　電話(平)二五九

平町一丁目
家具漆器卸小賣　和久井屋
吉田彦太郎
電話四〇五番

醫院開業
專問　産科、婦人科
花柳病科
◆午前宅診　午後往診◆入院應需◆
井坂醫院
平町田町(舊合津醫院跡)
電五五九番

初夏のサロン
樽詰生ビールを召せ
カップ一杯……十五錢
醉つた後の冷たい
アイスクリームも御座ます
田町　サロン
電三五二番

醫院開業
專問　耳鼻咽喉科
氣管食道科
◆入院隨意◆
增田耳鼻科醫院
平町南町(元眞木辨護士跡)

平町六丁目橋際
木村外科醫院
電話三〇九番

澤渡村助役　佐藤倉造

澤渡村小林醫院
小林信之

澤渡村林木商　菅野源重

澤渡村村會議員　佐藤宣省

外科、小兒科
外科、花柳病科
耳鼻咽喉科
レントゲン科
平町、電話五一三番
高久病院
院長醫學士高久忠

植田町長縣會議員　鷺清昇

赤津修一
來町字窪田

會津銘酒　木廣
一手販賣店　平町南町
電話四二一番

杉山炭礦鑛主　杉山今朝吉
內郷村白水

平町二丁目
山家メリヤス店
電話六〇五番

平町青年團長
多田井笑次郎
平町大工町

民政黨石城部會幹事長　萩原義雄

民政黨石城部會部會長　若松美三

平町紺屋町二九番地
辨護士　眞木法律事務所
眞本恒
電六五七番